活動報告

「日本笑い学会研究発表」初体験記

追手門学院大学笑学研究所所長　高垣　伸博

前所長・井上宏先生の「笑い学会で発表したらどうですか」という優しいお誘い？に、ウカっと「わかりました、発表します」と答えてしまったのがきっかけだったと記憶するのだが、果たして「2017 日本笑い学会第 24 回大会」にエントリー、そして発表という運びとなった。

大会は 2017 年 7 月 15 日（土）16 日（日）、会場は石巻専修大学である。亀山紘石巻市長が日本笑い学会の石巻支部長を努めておられること、また、東日本大震災復興支援の意味合いもあって、この地で開催された。

そもそも「日本笑い学会」は 1994（平成 6 年）7 月 9 日に設立され、初代会長が当研究所前所長の井上宏先生である。

さて、話しを学会発表にもどす。他の学会のことは知らないのだが、「日本笑い学会」の大会概要を簡単に説明しておくと、初日午前中は開会式、午後から発表、その後会場を変えての懇親会。二日目は午前の部、午後の部の発表のあと、記念シンポジウム、閉会式と言う段取りである。特徴的なのは発表が研究発表会会場とワークショップ会場の 2 会場での同時進行ということである。というのも、この「日本笑い学会」は大学関係などの研究者から医療関係者や一般人まで「笑い」に関心のある幅広い会員で構成されているため、研究発表だけではなく、笑いに関するパフォーマンスなどの発表の場も設けられているのである。来場者はプログラムを見て、自分の興味ある発表会場を行き来するのである。

私は勿論研究発表の方なのだが、事前に送られてきたプログラムを見ると、私の出番は（普通、学会で出番とは言わないだろうが…）二日目の午前。「なんで初日にしてくれへんの！」、思わず気が重くなった。二日目の午前に気を確かに持って発表できるのか。というのも、私の初陣を応援すべく研究所の先生方が初日に現地集合、翌日帰阪のスケジュールで大会に参加されるからであった。と言うことは初日の晩は前夜祭をしないわけにはいかない。（こともないのだが…）

往路、仙台駅で真銅先生と遭遇して石巻までご同行。石巻に着いて最初にしたことは、前夜祭の場所探しと予約であった。その後、他の先生方と合流して大会に参加、「日本笑い学会」石巻大会の雰囲気に酔いしれながら、本格的な「酔い」を求めていざ前夜祭へ。金華サバに焼きガキ、牛タンに美味いお酒と、翌日に発表を控えた緊張感をほぐすには十分すぎる前夜祭であった。

当日は比較的しっかりした意識で目覚めることに成功した。一足先に会場へ向かうためにホテル

を後にして、学会用の送迎バス乗り場に集合したのだが、手違いでバスが大幅に遅れて、会場に着いたのが開始時刻9時20分の10分ほど前であった。数名の発表者のデータ確認などを大慌てで済ませて、5分遅れで二日目の発表が始まった。

私の発表時刻はプログラム上は11時20分である。「そんなことはどうでもエエ！何を発表すんねん」「ハイ、仰るとおりです」

発表のテーマは『若者の笑いに関する調査報告』である。2015年10月の笑学研究所発足当初からの共同研究テーマである「若者の笑いの研究」の第一段階である「追大生の笑いに関する意識調査」の初年度中間報告と言う位置づけであり、また研究所を代表しての発表である。しかし、発表の主たる目的は笑学研究所の名を売ることである。その目的からすると、追手門学院大学には「笑学研究所」があり、その設立趣旨が何たるかは発信できたはずである。

念のため、発表の要旨を記載しておくことにする。

2017年7月16日「2017日本笑い学会第24回大会」
『若者の笑いに関する調査報告』

この報告は追手門学院大学・笑学研究所の共同研究の報告である。

「笑学研究所」は追手門学院大学に2015年10月に設立された。

初代所長は井上宏先生。目指すべき姿は『教育・文化のクローバル化に対応できるコミュニケーション力を備えた人材育成のための笑いと知の融合をめざした、総合的な学術研究所』であり、また、設立方針の中に「笑いを活用した教育プログラムの研究」がある。

まだ研究の途に就いたばかりであるが、手始めに「現代の若者」つまり追手門学院大学生の「笑いに」対する意識はどうなのか、を調査することにした。

この調査を始めるにあたっては、非常に興味深い、また、大変参考になる論文があった。笑い学研究第22号に掲載されている青砥弘幸先生の『現代の若者の「笑い」に関する実態とその課題』と題した論文の中で『学校教育における「ユーモア能力」育成の在り方を検討してゆくための基礎的な知見を得ることを目的として、大学生に対して実施した』である。

奇しくも、我が研究所の目指す方向と同様であり、これを参考にさせていただいたことをお断りしておく。（注）青砥先生は今回の学会でも、私の前に発表されている。）

その中で青砥先生は8つの視点から調査・考察をされていたが。特にそのうちの4項目が共通点であった。

・「人間関係形成力」つまりコミュニケーション力に関するもの。
・「人間関係形成力としての笑い」、つまり対話における「笑い」に関するもの。
・「伝統文化としての笑い」
・「言語能力としての笑い」

今回は「人間関係形成力」つまりコミュニケーション力に関するもの。「人間関係形成力としての笑い」、つまり対話における「笑い」に関するものの報告に留めておく。

調査方法

・追手門学院大学生（1〜4 年）482 人（男性 238 人　女性 228 人　性別無回答 16 人）を対象に行った。
・出身：大阪府下 251 人含む近畿 439 人
・実施期間は 2016 年 9〜11 月
・無記名による紙アンケートで合計 24 問を、主に 5 段階（1〜5）の中からの選択回答方式と解答例からの選択、また自由記述も用意した。

なお 5 段階選択方式の集計に関しては、4, 5 の回答はまとめて「当てはまる（積極派）」、1, 2 の回答はまとめて「当てはまらない（消極派）」として報告している。また、無回答は集計にカウントをしない。

・設問の傾向としては、
人間関係（コミュニケーション能力）と家庭環境

人と向き合って言いたいことが言える。そして、より良好な人間関係を築くためには、当然必要最小限の発語だけでは不充分であって、社交辞令なども必要となってくる。さらに目指すは「冗談の一つも言える」「人のジョークに笑える」社交的な「笑い」への理解である。

まずはコミュニケーションの基本である「喋る」という行為。

この「喋る」という行為における特性、つまり「シャベリ」や「無口」という特性が本人個体のものなのか、家族や家庭環境の影響をうけるのか。「喋る」ということにウエイトを置いていることを断っておく。

まずは、自分自身をどう分析するのか。果たして追大生には「お喋りやさん」が多いのか否かである。

「あなたはよく喋るタイプですか？」との問いに「当てはまる」と回答したのが 224 人（46.5 %）、半数弱が「よく喋るタイプ」だと自認している。勿論その中には、無駄口の多い「単なるシャベリ」も含まれるであろうが、この際無口よりは善しとしよう。その「無口」に「当てはまる」と回答した学生が 124 人（約 25%）もいることは看過しがたい。せめて、彼ら、彼女らは無駄口は叩かず「最低限言うことは言える」学生であってほしいものだ。

では、友人とのコミュニケーションはどうだろうか。

「友人とはよく喋りますか？」に「当てはまる」が 360 人（約 75%）。これは相手のことが解っている、気心が知れているからよく喋るのであろう。当然といえば当然であり、「初対面の人とは喋ることができますか？」と問えば結果は大きく違ってくるだろう。

一方で「当てはまらない」と答えた学生が35人存在した。これは対人関係を拒絶しているということなのか。

では、より気心が知れている家族とはどうだろうか。

「家族とよく喋りますか？」との問いに「当てはまる」と回答したのは285人で全体の約59%、この数字は筆者の想像を超えた数字であった。意外に家族と喋っていることがわかった。一方、「当てはまらない」のが79人（約16%）であった。

まとめると

「あなたはよく喋るタイプですか？」　224人（46.5%）
「友人とはよく喋りますか？」　360人（74.7%）
「家族とよく喋りますか？」　285人（59.1%）

となる。

では、以上の3の設問の結果から、それぞれの関係性を考察してみる。

まず、「よく喋るタイプ」と自認している学生のうちで「友人とよく喋る」に「当てはまる」のが216人（44.8%）、その一方で「無口」で「友人とも喋らない」が27人（5.6%）いることがわかった。

また「よく喋るタイプ」と自認している学生のうちで「家族ともよく喋る」に「当てはまる」学生が160人（33.2%）であった。

一方で「無口で家族とも喋らない」と答えたのが35人（7.3%）いる。

そして「友人ともしゃべり家族とも喋る」と回答したのは251人（52.1%）であったが、「友人とも家族とも喋らない」と答えたのが15人（3%）いたことも事実である。

まとめると

「よく喋るタイプで友人とよく喋る」　216人（44.8%）
「よく喋り、家族ともよく喋る」　160人（33.2%）
「友人ともしゃべり家族とも喋る」　251人（52.1%）

となる。

ところで追大生が自分の家庭をどう感じているのか。「楽しい家庭ですか？」に「当てはまる」と回答した学生が61.6%の297人で、これも予想外の好結果。この結果は「家族とよく喋りますか？」に「当てはまる」と答えた285人（59.1%）とほぼ同様の数字であった。

では「よく喋るタイプ」に「当てはまる」学生のうち、どれくらいの人数が「とても楽しい家庭」に「当てはまる」のか。これには162人（33.6%）が「当てはまる」と回答した。つまり「自分はよく喋り」「とても楽しい家庭だ」ということでる。これも前出の「よく喋るタイプ」で「家族ともよく喋る」に「当てはまる」と同様160人（33.2%）の結果だ。

では「家族とよくしゃべり」「楽しい家庭」に「当てはまる」と答えた学生はどのくらいいるの

か。51.2%、247 人であった。つまり、よく喋る家族ほど楽しい家庭であると言える。

これらのことを総合すると「家族とよく喋り、楽しい家庭に育つとよく喋る人になる」と言うことができる。

さて、1 対 1 のコミュニケーションではなく、1 対多数の場合はどうなのか。学生のみならず社会へ出てからも機会が多いのがプレゼンテーションである。これは大勢の前で「喋る」能力、物怖じしないという姿勢が問われる。

半数弱の 224 人が「よく喋るタイプ」だと自認している追大生が「あなたは大勢の前で喋るのが得意ですか？」との問いに、果たしてどう答えたのか。「当てはまる（この場合は消極派になるが）」が 91 人（18.9%）と激減。自称「喋り」は多くても、大勢の前では途端に喋れなくなるのである。これは日頃の学生を観ていれば想像に難くない。

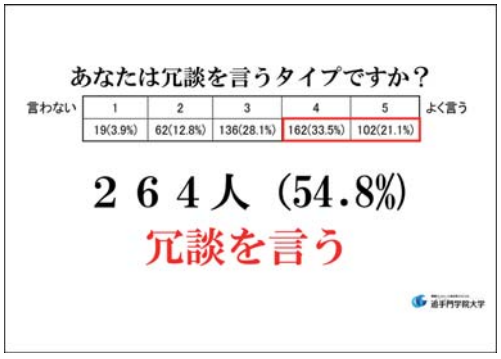
「大勢の前で喋るのが得意だ」とは意味合いは異なるが、人間関係を築く上である程度重要な要素であり、「積極性」の表われでもあるのが「目立ちたがり」と言う性格。

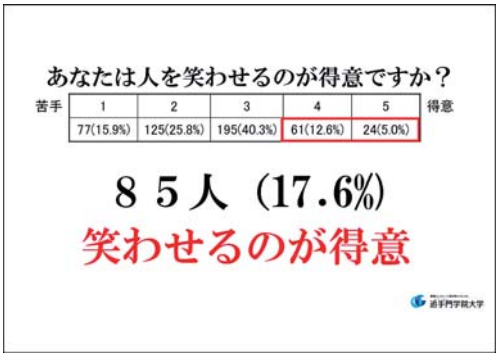
そこで「あなたは目立ちたがり屋ですか？」と聞いてみた。「当てはまる」が 80 人と 20% にも届かない結果である。この「目立ちたがり」という言葉にマイナスのイメージを抱くのかもしれないが、特に「笑い」を含んだコミュニケーションには必要な要素である。おとなしいのも美徳ではあるが、学生は「目立ちたがる」くらいの度胸と積極性、元気強さが欲しいものである。

さて、ちょっと話は飛ぶのだが、「笑わせる」にも様々な手法がある。奇妙な動きや表情、予想外の行動などで笑いを誘うことは日常よくあることだ。しかし、よい人間関係を築くための「笑わせ」方としては、言葉によるものが適切であろう。つまり「冗談」が言えるかどうかである。

「あなたはよく冗談を言いうタイプですか？」という設問に対して「当てはまる」と答えた学生は 264 人で全体の約 55% であった。

「人を笑わせるのが得意ですか？」との問いには「当てはまる」が、482 人中なんと 85 人と 20% にも満たない。





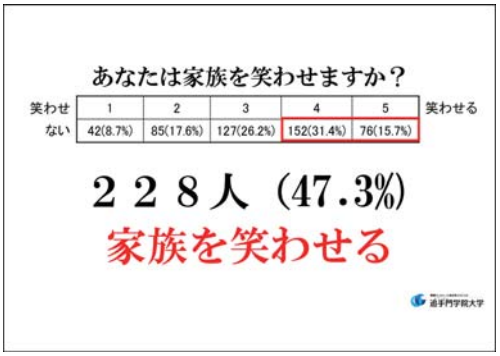
「笑わせる」という能動的な日常行為に対して、対象が「ウケている」と判断するか「ウケていない」と判断するかによって「笑わせるのが得意か否か」の回答は迷うところであろう。約 40% を

占める 195 人が 3 を選択したのは、その辺りにあるのではないだろうか。

家庭が好きな追大生は「家族を笑わせますか？」との問に「当てはまる」と答えたのが 228 人で全体の 47.3% であった。家族とはいい関係である。

さて先ほどの「人を笑わせるのが得意」が 85 人と 20% にも満たない追大生だが、果たして「人を笑せられるようになりたい」と思っているのだろうか。その問いかけに 240 人（49.9%）と約半数が「なりたい」と望んでいることがわかった。

そう思わないと考えているのが 92 人（19%）であることを考慮しても、基本的には「笑わせたい願望」はあると考えてよい。





今回はアンケート結果の抜粋であり、研究の目標にどう繋がってゆくのかは、今後の経年調査の継続とともに、別のアプローチによって明らかになってゆくはずである。

最終的に「笑いを活用した教育プログラム」の開発に繋がることを信じつつ報告を終えることにする。

以上、発表要旨であるが、何とか無事発表を終え、応援の先生方から労いのお言葉を頂戴し、足取りも軽く？帰途に就いたことは言うまでもない。

2017
日本笑い学会第24回大会

プログラム

●日　時	7月15日(土)	受　　付	10：00～
		総　　会	11：00～12：00
		研究発表	13：00～15：25
		記念講演	15：35～17：00
		懇　親　会	17：30～19：20
	7月16日(日)	受　　付	9　：00～
		研究発表	9　：20～11：45
		研究発表	12：30～13：40
		シンポジウム	13：50～15：50

●場　所　石巻専修大学　5号館
〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸1番地

●参加費　会　　員　2000円　　学生会員　1000円
非 会 員　1日券　1200円　　学生　600円
懇親会費　4000円

＊会員証が名札代わりになりますので、必ず会員証を持参してください。

日本笑い学会
〒530-0047 大阪府大阪市北区西天満4－7－12－201
TEL 06-6360-0503
E-mail：warai@nwgk.jp　HP：http://www.nwgk.jp/

第24回　大会プログラム

第1日　　2017年7月15日(土)

10：00　受付開始

11：00　開会　（大ホール5301）

11：00　総会
開会挨拶　日本笑い学会会長　森下　伸也
来賓挨拶　石巻専修大学学長　尾池　守

11：15～12：00　総会議事　①前年度活動報告
②会計決算報告　監査報告
③事業計画　予算案
④その他

12：00～13：00　休憩

13：00～15：25　研究発表・ワークショップ

13：00～13：25
①研究発表「お笑い番組の語られ方―新聞・雑誌記事からの一考察―」
石田　万実　（大ホール5301）
②ワークショップ「『たおるマジック』でみんな笑顔に!!」
占部　千代子　（教室5302）

13：30～13：55
③研究発表「明治・大正期のギャグマンガにおける文明開化
―北澤楽天の「新版膝栗毛」を中心に―」
BORTER Matthieu（ボルテール・マテュー）
（大ホール5301）
④ワークショップ「“にほんglish”と替え歌手遊び」
小笠原　大輔　（教室5302）

14：00～14：25
⑤研究発表「女流江戸狂歌の魅力～知恵内子と節松嫁嫁～」
野中　由彦　（大ホール5301）
⑥ワークショップ「歌って　手遊び　ご健笑…
笑ったら私の心と体はどうなった？…」
阿部　眞宜・阿部　洋子　（教室5302）

14：30〜14：55　⑦研究発表「イギリス演劇の笑いの仕掛けとユーモアのセンス
—ラティガン劇を中心に—」
落合　真裕　（大ホール5301）

14：30〜14：55　⑧ワークショップ「『笑いの呼吸法』で声量感UP!!
〜出やすくなった自身の声を体感下さいませ〜」
万代　京央子　（教室5302）

15：00〜15：25　⑨研究発表「プレヴェールのシャンソンと笑い」
戸板　律子　（大ホール5301）

15：00〜15：25　⑩ワークショップ「一創作の踊り—笑って健康・笑顔で長生き
『岸壁の母』を踊って15年」
鈴木　正平　（教室5302）

15：35〜17：00
記念講演「被災地　石巻に笑顔を取り戻すために」　（大ホール5301）
亀山　紘（石巻市長／日本笑い学会石巻支部長）

17：30〜19：20　懇親会　会場　飛翔閣

第2日　2017年7月16日(日)

9：00　受付開始

9：20〜11：45　研究発表・ワークショップ

9：20〜9：45　⑪研究発表「小学校の『落語クラブ』活動でみえた子どもの華麗な変身」
遠藤　謙一郎　（大ホール5301）

9：20〜9：45　⑫研究発表「我笑う、ゆえに我なし　“Flow”状態としての笑いの『最中』」
森下　淳子　（教室5302）

9：50〜10：15　⑬研究発表「子どもの『ユーモア能力』育成のための方法・教材の検討」
青砥　弘幸　（大ホール5301）

9：50〜10：15　⑭研究発表「心理的安全性と笑い—観客（受け手・聞き手）が笑いに及ぼす影響—」
矢島　伸男　（教室5302）

10：20〜10：45　⑮研究発表「生後４ヶ月までの乳児の自発的微笑と
社会的微笑の関係に関する一考察」
池田　正人　（大ホール5301）

10：20〜10：45　⑯研究発表「仏典の中の‘笑い’（11）—『十住毘婆沙論』を中心に〔上〕—」
小森　英明　（教室5302）

10：50〜11：15
⑰研究発表「幼児期における笑いの不愉快さの理解と感情理解および心の理論に関する縦断的調査」
伊藤　理絵　（大ホール5301）
⑱研究発表「高齢者対象講座における　笑いのアクティブラーニング効果」
堀　登志子　（教室5302）

11：20〜11：45
⑲研究発表「『若者の笑いに関する調査報告』〜漫才で揉めない？追手門学院大学〜」
高垣　伸博　（大ホール5301）
⑳研究発表「滑稽に見えること／滑稽であること」
鵜子　修司　（教室5302）

11：45〜12：30　昼　食

12：30〜12：40　㉑パフォーマンス部門「笑って健康カードーあなたが大笑（大将）ー」
松本　正美　（教室5302）

12：45〜13：40　研究発表

12：45〜13：10
㉒研究発表「PTSD状態を起こさなくなった笑いの力―交通事故の記憶よりー」
中村　富美　（大ホール5301）
㉓ワークショップ「即興劇（インプロ）と笑いやすい環境作りについて」
野村　真之介　（教室5302）

13：15〜13：40
㉔研究発表「笑いとユーモアの問題点は何か？」
瀬沼　文彰　（大ホール5301）
㉕ワークショップ「『バナナのたたき売り』の会場は笑顔の宝庫」
間　六口　（教室5302）

13：50〜15：50
シンポジウム「被災地に笑顔を・その取り組み」　（大ホール5301）
コーディネーター　亀山　紘（石巻市長　日本笑い学会石巻支部長）
パネリスト　長谷川啓三（東北大学名誉教授　日本笑い学会東北支部）
大平　哲也（福島県立医科大学　日本笑い学会理事）
千葉　俊一（歯科院長　日本笑い学会東北支部長）
中村　礼子（コープフードバンク事務局長　日本笑い学会石巻支部・副支部長）

15：50　閉会挨拶　日本笑い学会副会長　鳶野　克己



石巻専修大学

【食 堂 案 内】

昼食は、7月15日(土)・16日(日)とも、
学生会館１階にある食堂でお願いいたします。
定食類、麺類、カレー類など、
メニューは８種類ほどご用意しています。

＊大学の300メートル東側にコンビニ（ミニストップ）があります。
500メートル東側にコンビニ（ローソン）があります。

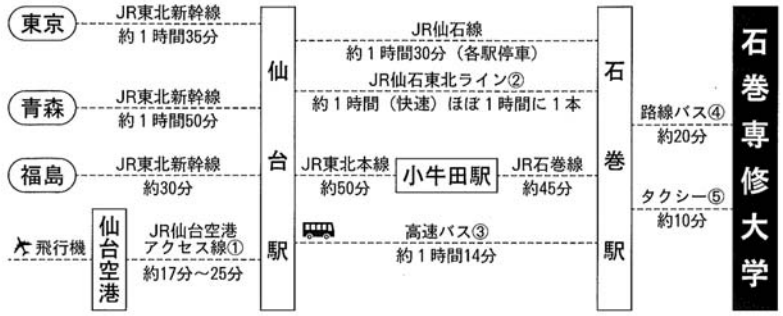
賛 助 会 員

吉本興業㈱　松竹芸能㈱　社会福祉法人 永甲会 うねめの里
㈱柏葉脳神経外科病院　山中胃腸科病院　㈱春陽堂書店
㈱三重平安閣　チルコロ 岡本比呂樹

◆会　場　石巻専修大学　５号館

【所　在　地】〒986-8580 宮城県石巻市南境新水戸１番地

【交通アクセス】JR仙石線・JR仙石東北ライン石巻線石巻駅下車



①仙台空港～仙台：JR仙台空港アクセス線をご利用ください。約17分～25分で、650円。

②仙台～石巻：JRご利用の場合、仙石東北ラインの快速は約１時間で、840円。

＊仙台発も、石巻発も、ほぼ１時間に１本、運行します。

JR仙石東北ライン〈快速〉～７月15日(土)・７月16日(日)共通

「仙台発(石巻着)」　7：24(8：20着)　8：20(9：20着)　9：24(10：16着)　10：15(11：17着)　12：17(13：15着)
13：16(14：17着)　14：16(15：17着)　15：16(16：16着)　16：14(17：11着)　17：11(18：10着)
18：10(19：16着)　19：26(20：24着)

「石巻発(仙台着)」　8：12(9：18着)　9：03(10：04着)　9：58(11：04着)　10：59(12：02着)　11：52(12：55着)
13：53(15：03着)　14：58(16：00着)　15：52(16：40着)　16：54(17：49着)　17：53(18：52着)
18：59(19：56着)　19：58(20：56着)　20：58(21：50着)

③仙台～石巻：高速バス利用の場合、仙台駅西口エデン前21番のりばから、石巻駅前まで。約１時間14分で、800円。

④石巻～石巻専修大学：バス利用の場合、石巻駅前３番のりばから、石巻専修大学まで(北門前に着きます)。約20分で、260円。

「石巻駅前発～石巻専修大学へ」　土曜／8：05　8：25　9：10　10：25　11：05　13：00　14：00　15：55　17：00
日曜／9：10　11：05　13：00　14：00　15：55

「石巻専修大学発～石巻駅前へ」　土曜／8：09　8：35　8：55　10：55　11：52　13：52　14：52　16：52　17：30　17：57
日曜／8：09　11：52　13：52　14：52　16：52　17：57

＊７月16日(日)　大会終わりの午後４時すぎに、石巻専修大学から「石巻駅前行きの臨時バス」を出します。(２往復)

⑤石巻～石巻専修大学：タクシー利用の場合、約10分で1500円位です。
降車は、石巻専修大学の北門前で。(北門から５号館まで約80m)
石巻駅前でタクシーは見つかりますし、石巻専修大学では呼べば来てくれます。
〈石巻大会参加者と相乗りすると、スピーディに安く行けます〉。

＊７月16日(日)　朝８時半前後から２時間ほど、石巻支部の係員が「石巻駅前のタクシー乗り場」に待機。
「石巻大会参加者同士で、相乗りしましょう」と誘導してくれます。



